

「癌」食べて治せ No.3

緑黄色野菜の葉酸とVB₁₂が肺癌に有効

加藤治文
東京医科大学教授

「癌」の予防は、第一に食生活、次いで「丹羽SOD様食品」

酸素は、私たちに必要不可欠なものです。しかし、酸素から過剰な活性酸素ができると、その酸化作用で細胞の膜や核を傷つけます。その結果、動脈硬化や糖尿病、癌など老年病を引き起こします。

癌を引き起こす主因といわれる活性酸素への対策は、先ず日常の食生活に注意することが先決です。本シリーズでは、食生活から見た「癌予防」のポイントについて掲載します。しかし、食事だけでは、癌を予防できないことも事実です。そこで、不足する活性酸素対策(癌予防対策)に、「丹羽SOD様食品」を摂取するののも一方策です。

日本SOD研究会がおとどける
健康増進と病気・老化予防のQ&A

No. 15



Q: 緑黄色野菜の癌予防効果はよくマスコミで報道されていますが、もっと詳しく知りたいのですが。

A: 緑黄色野菜の癌予防効果というと、少し健康に興味のある人ならば、すぐにビタミンAやカロチンを思い浮かべるのではないだろうか。しかし、緑黄色野菜の癌予防効果は、それだけが理由ではないようだ。

緑黄色野菜やレバーに豊富な葉酸とビタミンB₁₂で、その可能性を示したのが、加藤教授である。加藤教授は、肺癌の光化学療法などで知られる癌治療の第一人者だ。

ところが、80年代、多くの患者を診る中で、胃を切除した患者に高率で肺癌が発生していることを確認した。なぜ、胃を切除した患者に肺癌が多いのだろうか。

このQ&Aは、病気の90%に関するといわれる活性酸素、活性酸素を除去する丹羽SOD様食品など、さまざまな症状や疾患について、最新の情報を掲載しています。定期的に発行されていますので、毎号お集めになりますと、健康管理ノートができます。このQ&Aは、最寄りの丹羽SOD様食品取扱店でお求めになれます。

昔から、胃を切除すると「悪性貧血」という合併症が起こることが知られている。胃を切ると葉酸やビタミンB₁₂の吸収ができなくなり、放置するとその欠乏から悪性貧血が起こるのである。すると、肺癌の発生にも葉酸やビ

目次

- 緑黄色野菜の癌予防効果は？
- 緑黄色野菜による肺癌予防の研究は進んでいますか？
- 人の肺癌でも有効ですか？
- 喫煙と肺癌の関係は？
- SOD製剤による臨床報告
- 乳癌再発、転移が軽快

タミンB₁₂の欠乏が関係しているのではないだろうか。実際に、加藤教授によると「葉酸やビタミンB₁₂は、傷ついた遺伝子を修復する働きがあることが知られている」という。

癌は遺伝子、中でも癌の発生を抑える、癌抑制遺伝子が傷つくことで発生していく。葉酸やビタミンB₁₂は、この癌抑制遺伝子の傷を修復する働きをするのである。

そうすると、当然不足した葉酸やビタミンB₁₂を補えば、癌の発生が抑えられるのではないか、という考えが出てくる。

Q：緑黄色野菜の癌予防効果についての研究は、どの程度まで進んでいるのですか？

A：しかし、世界には同じようなことを考える研究者がいるものだ。92年には、ドイツの研究者が「胃を切除した人は、肺癌の発生率が高まる」と発表。

また、アメリカでは80年代に、痰(タン)に含まれる細胞の検査で、肺癌の前癌状態(扁平上皮化生)と診断された喫煙者に葉酸とビタミンB₁₂を4ヶ月間投与。その結果、痰に

含まれる異常な細胞が減少したと発表したのである。

そこで、加藤教授らは、病院で診察した患者さんたちの協力を得て、葉酸とビタミンB₁₂が、肺癌の前癌状態にどのような影響を及ぼすのか、その効果を内視鏡を併用して詳しく検討したのである。



Q：緑黄色野菜の葉酸とビタミンB₁₂は、実際の人の肺癌ではどの程度有効ですか？

A：加藤教授らが、葉酸とビタミンB₁₂の有効性の実験で、協力を依頼したのは、タンの検査で扁平上皮化生(前癌状態)が見つかった人たちだ。扁平上皮化生というのは、気管支の粘膜の細胞が、本来の顔とは違う顔つきに変わった状態を指す。喫煙や風邪などをきっかけに、こ

うした変化はしょっちゅう起きているが、その中には変化が進んで肺癌になるものがある。こうしたことから、扁平上皮化生は癌になる可能性のある状態といわれている。

そこで加藤教授は、扁平上皮化生が見つかった82人(最終協力者62人)の男性患者に協力を求め、二つのグループに分割。一方には葉酸とその働きを助けるビタミンB₁₂薬を飲んでもらい、全く飲まなかった患者と比較検討した。

二つのグループでは、喫煙指数や扁平上皮化生のできた部位などに、全く差はなかった。しかし、1年間で内視鏡で気管支の状態を追跡調査した結果、大きな差が表れたのだ。

最後まで葉酸とビタミンB₁₂を飲んでいた人36人：肺癌になった人は一人もなく、24人の気管支が正常に戻っていた。他の人でも、変化はないが改善が認められた。つまり、67%の人の細胞が正常に戻るなど、ほとんどの人で細胞の異常が良くなっていった。葉酸を飲まなかった人26人：細胞が正常に戻ったのはたった一人だった。改善が認められたのもわずか3人で、21人は変化なし。一人

は異常が進み癌の一步手前の状態まで進行していた。

この結果から、加藤教授は、「葉酸やビタミンB₁₂は、扁平上皮化生の治療に有効だといえます。しかし、本当に癌を予防できるかどうかはまだ分かりません。ただ、前癌状態を改善するということは、そこから癌になる率が低くなるということですから、そういう意味では有効といえるかもしれません」と語っている。

ただし、実験で使った葉酸は、一日分でパケツ1杯分のレバーに相当する量になる。食事で摂取することは困難だ。加藤教授は、むしろパランスを崩さない範囲で緑黄色野菜など葉酸の豊富な食品を摂取することを勧めている。



Q：喫煙がなぜ肺癌の原因となる

のか、について知りたいのですが。

A：肺癌の予防を考えるときに、避けては通れないのが喫煙の問題だ。肺癌は、癌検診の対象となっているが、それでも治る段階で発見される人は、3〜4割にすぎない。胃癌などに比べると、今もなお手ごわい癌なのである。

加藤教授が治療と同時に食べ物による癌予防に力を注いでいる理由もここにある。そして、喫煙者は葉酸とビタミンB₁₂の効果という点でも、不利な状況にあるといっている。

たばこの煙に含まれる発癌物質は、分かっているだけでも60種に及ぶ。これが細胞を慢性的に刺激し、細胞を癌化させていく。しかし、別のルートでは、たばこが葉酸の働きを抑える結果、細胞の変化が起りやすくなると考えられているのである。

Q：喫煙者は緑黄色野菜をよく食べると、肺癌になりにくいのですか？

A：加藤教授も「緑黄色野菜をよく食べていると、肺癌の発生率が低下

する」という報告がありますが、これもカロチンの作用だけでなく、葉酸の血中濃度が高くなって発癌物質の作用を抑えることも影響しているのではないかと考えている。

葉酸は、傷ついた遺伝子の修復に働き、少なくとも前状態（扁平上皮化生）にある細胞を改善することが加藤教授の研究で明らかにされている。葉酸とビタミンB₁₂を服用し続けていた人は、最終的に血液中のこれらの濃度が2倍にも増えていた。それが、前癌状態の改善に作用したとみられている。

ところが、たばこは葉酸などのビタミンを破壊し、その血中濃度を低下させることが分かっている。そこで、加藤教授は、まず禁煙、少なくとも喫煙者は葉酸などのビタミンを補給する必要があると指摘。

しかし、それでもなお前癌状態（扁平上皮化生）になる人の2割は、一度もたばこを吸ったことのない人たちだ。これは、間接喫煙や大気汚染、ディーゼル車から出る排ガスなど、汚染された空気が大きな原因、と加藤教授は強く指摘している。「汚れた空気が、どれほど国民の健康を害しているか分かりません。空気がき

れいになれば、肺癌や肺気腫はもちろん、喘息やアトピーなどの病気も激減するはず。証拠がないでは済まないのです。これは、社会全体で取り組まなければいけない問題です。」



本文は、「癌」食べて治せ（日刊スポーツ・No 06・07・08）から、抜粋・引用しました。

バックナンバーについて
日本SOD研究会では、これまでに発行した「Q&A」のバックナンバーを用意しています。様々な疾患と活性酸素の関係について掲載しています。
ご希望の方は、最寄りの取扱店または、日本SOD研究会（までご連絡ください。

命と健康のために SODロイヤル

SODロイヤル(丹羽SOD様食品)は、丹羽博士が長年をかけて開発した、天然の植物・種子を素材にした天然製剤で、副作用などの心配は皆無の健康食品です。

国際製法特許取得



SOD製剤による臨床報告

本症例はすべて、丹羽博士が院長を務める土佐清水病院での、末期癌を含めた重症の患者の症例です。博士が長年をかけて研究開発した**天然SOD製剤BG104**および**天然低分子抗酸化剤(SOD様作用食品)**を治療の主体とした症例を掲載しています。小誌の掲載内容は、丹羽博士の著書「天然SOD製剤がガン治療に革命を起こす」から、抜粋・引用しました。治療の詳細を知りたい方は同書を参考にしてください。

乳癌切除後再発。

体中に転移していた癌が軽快

M・N 47歳 女性 乳癌

【現症ならびに来院時所見】

来院時より数えて一四年前右乳癌が発生。某県立癌センターにて所属リンパ腺・前胸筋も含めて切除。以後、化学療法も行わず順調であったが、七年前に肋骨転移が起こり、四年前に肋膜、三年前に腹膜、八ヶ月前に卵巣に次々と再燃転移を繰り返して、そのつど多くの抗癌剤の点滴、内服を行い、転移巣を抑えていた。しかし、腹膜転移後は約二ヶ月に一度腹水を抜き抗癌剤を繰り返して、そのため発熱、脱毛、嘔気、食欲不振、るい痩著

明となり(体重五四kg 三六kg)、来院八ヶ月前の卵巣切除以後は、もうこれ以上、繰り返した抗癌剤の副作用に耐えられず、化学療法を拒否していたところ、四ヶ月前、左下肺野と右肺にも転移(写真5「省略」)が判明し、平成五年七月私の診療を求めて来院す。

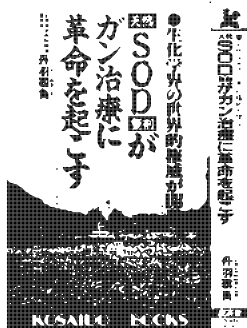
来院時、咳嗽(がいそう)、喀痰(かくたん)に衰弱強く、BG104と低分子抗酸化剤(SOD様作用食品)を所定の量(省略)処方、内服開始。成分尿療法に遠赤外線治療も併用した。

【臨床経過】

二ヶ月後には、咳嗽、喀痰ともに軽減し、写真6(省略)のようにX線撮影で腫瘍陰影消失を確認し、CA15・3などのマーカーも正常に維持されている。軽快退院後、一年半を経過しているが、再発の兆しなく、家庭の主婦業に従事している。

【考察と結論】

副作用の強い抗癌剤にも抵抗し、ほぼ全身の臓器に転移再燃を繰り返し、抗癌剤の副作用で体力の限界も招いていたにもかかわらず、抗癌剤を中止し、治療に向かった患者さんで、現代西洋医学の力(抗癌剤、放射線療法)では考えられないことである。



[当商品には合成着色料・合成保存料は使用していません]

丹羽博士が長年をかけて研究・開発し、多くの学会や研究機関で臨床成績が確認されているSODロイヤル(丹羽SOD様食品)を始めとする、活性酸素を除去するルイボスTX、スーパールイボスティ、SODクリームなどは、下記の取扱店でお求めになれます。

お問い合わせ先

製造・発売元

フジ流通システム
埼玉県富士見市鶴馬3489-1